

スペシャルナイト「世界最高峰の星空をお茶の間へ 朝日新聞宇宙部の歩み」

実施報告

野村 美月*

概要

近年、動画サイトや SNS を用いて科学に関する情報発信がインターネット上で活発に行われている。そこで、2026 年 2 月 7 日に YouTube チャンネル「朝日新聞宇宙部」の立ち上げ・運営を行う東山正宜氏をお招きし、YouTube での星空配信や新聞記者として宇宙開発や科学研究の現場に関わった経験をご講演いただくスペシャルナイト「世界最高峰の星空をお茶の間へ 朝日新聞宇宙部の歩み」を実施した。本稿では、このスペシャルナイトの実施について報告する。

1. はじめに

「朝日新聞宇宙部」は、国立天文台すばる望遠鏡が設置されている標高 4200m のハワイ・マウナケア山頂や、東京大学木曽観測所などから 365 日 24 時間の星空配信をしている世界でも珍しい YouTube チャンネルである。流星群や彗星といった天文イベントを紹介するだけでなく、過去に数例しか観測されていない「流星クラスター」をライブ配信中に捉え、関連論文が発表されるなど科学的な成果も挙げている。

本イベントでは、「朝日新聞宇宙部」の立ち上げ・運営を行う東山氏を招いての講演、そして特別ゲストとし



図 1. イベントポスター

て東山氏と旧知の仲である明石市立天文科学館井上館長をお招きし、クロストークを行った。

新聞記者という立場から宇宙開発や科学研究の現場に関わられてきた東山氏の講演を通じ、研究者とは違った視点から見た科学の世界を知っていただくことを目的とした。

2. イベント実施概要

このスペシャルナイトの実施概要を以下に示す。

- ・タイトル: スペシャルナイト「世界最高峰の星空をお茶の間へ 朝日新聞宇宙部の歩み」
- ・日時: 2026 年 2 月 7 日 (土) 18:30~20:30
- ・場所: プラネタリウムホール
- ・対象: どなたでも
- ・料金: 1,000 円
- ・定員: 250 名 (事前申し込み制・先着順)
- ・チケット: チケットカウンター、web にて販売。

2025 年 12 月 6 日販売開始。

- ・主催: 大阪市立科学館
- ・当日のスケジュール:
 - 17:00 準備・会場設営、リハーサル
 - 18:00 開場
 - 18:30~19:10
 - ①朝日新聞宇宙部とは?
 - 19:10~19:50
 - ②明石市立天文科学館館長・井上氏とのクロストーク
 - 19:50~20:30
 - ③今後注目の天文現象、宇宙イベントについて
 - 20:30 終演

* 大阪市立科学館
m-nomura@sci-museum.jp

3. 当日のようす

当日のようすを、以下写真とともに記す。

3-1. 朝日新聞宇宙部とは？

野村学芸員が開演の挨拶を行い、その後東山氏による朝日新聞宇宙部の紹介を行った。朝日新聞宇宙部がどのような活動をおこなっているのか、ライブカメラに捉えられた珍しい現象、苦労話などをたっぷりお話しいただいた。

今回、Amateras Server の機能を活用し、ドームスクリーンには講演スライドだけではなく、その上部に YouTube チャンネル「朝日新聞宇宙部」にてリアルタイムで配信されている、ハワイ・マウナケア山頂のライブカメラ映像を常時表示した。当日のハワイの天候は良好だったため流星が見られることがあり、時折来場者から驚きの声が上がった。



写真2. イベント中のドームスクリーンのようす

上部が「朝日新聞宇宙部」にてリアルタイムで配信されているハワイ・マウナケア山のライブカメラ映像、下部に講演スライドを配置している。

3-2. 明石市立天文科学館館長・井上氏とのクロストーク

続いて、特別ゲストである明石市立天文科学館・井上館長を交えてご講演をいただいた。東山氏と井上氏は名古屋大学の天体研究会の先輩後輩の関係であることから、学生時代の思い出話に始まり、終始和やかな雰囲気で行進していた。

特に来場者の反応が大きかったのは、朝日新聞宇宙部発足のきっかけが井上氏の Twitter(現 X)の発言であったことというテーマであった。2018 年 10 月に藤原道長が詠んだ「望月の歌」からちょうど 1000 年目の満月が見られることから、満月のライブ中継を実施したところ大成功をおさめたことがきっかけで、ライブ中継

の活動が広がっていった経緯を、朝日新聞社内でのエピソードも交えながらご紹介いただいた。



写真3. クロストーク中の東山氏(左)と井上氏(右)

来場者の中には朝日新聞宇宙部についてよく知らないという方も少なくなかったが、朝日新聞宇宙部の YouTube チャンネルの QR コードが表示されると多くの方がスマホを向け、チャンネルにアクセスしているようだった。

3-3. 今後注目の天文現象、宇宙イベントについて

最終ブロックでは、今後日本国内外で見られる天文現象や宇宙開発に関わるトピックをご紹介いただいた。また、3 月に開催される、オンラインでも参加可能なイベントである朝日宇宙フォーラム 2026 の告知があり、新世代の宇宙飛行士である米田あゆ氏や土井隆雄氏が登壇されるということで開催日時などをメモしている方が非常に多いように感じた。

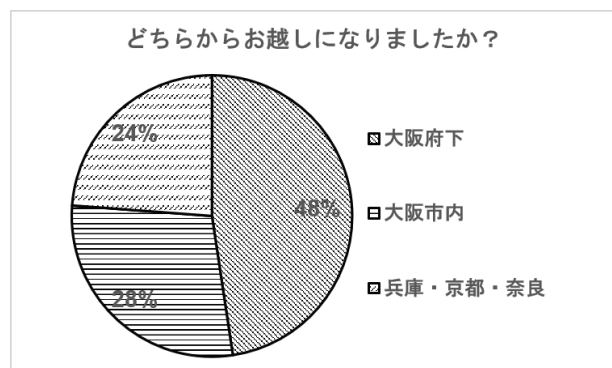


写真4. 朝日宇宙フォーラム 2026 の告知

4. アンケート集計

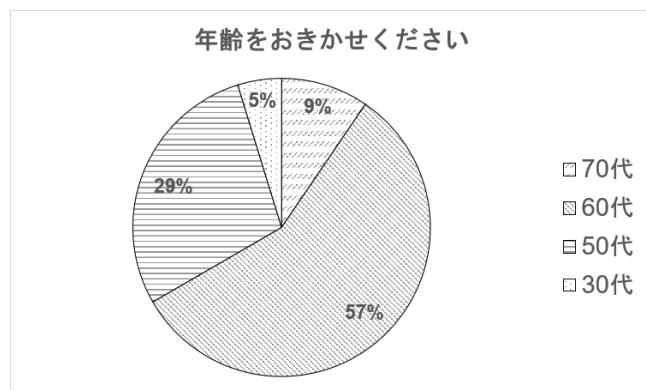
4-1. どこから参加したのか

大阪府下（大阪市を除く）が約半数、大阪市内を含めると8割ほどが大阪市内から参加していた。比較的近郊からの参加者が多かった。



4-2. 年齢

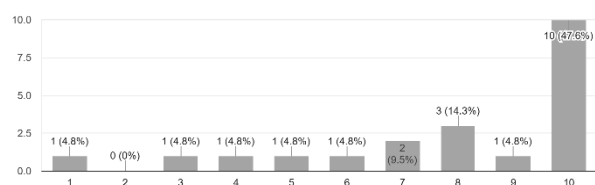
アンケート回答者は50代・60代が8割を占めていた。客席の様子を見ると、10代・20代と思われる参加者も見られたため、全く若年層の参加がなかったというものではない。



4-3. 満足度

「同じようなプログラムがあれば、おすすめしたいか」という観点で10段階評価をしてもらった。概ね満足度は高いが、1～5の間の評価もあった。自由記述欄を見ると、「わかりやすく非常によかった。このようなテーマでまたスペシャルナイトをやってほしい。」という声がある一方で、「最新の研究の話題がききたかった」という声も少なからずあった。今回は参加者の興味関心の方向によって評価が分かれる内容であったことが伺える。

同じようなプログラムがあれば、おすすめしたいですか？ 1から10の番号で お答えください。
21件の回答



5. おわりに

今回のスペシャルナイトは定員 250 名のところ参加者が 130 名とおおよそ定員の半数となった。SNS や朝日新聞宇宙部のコメント欄等を見ていると「東京での開催はありますか？」「関東だったら行ったのに」のようなコメントが目立ち、普段から朝日新聞宇宙部に興味を持っていても、大阪開催という点で参加を諦めてしまっている層が一定数いるように見受けられた。関心が高い層に「大阪まで足を運んででもぜひ参加したい！」と思っていただけるような広報ができなかったことを反省したい。

「最先端の研究の話題」ではなく、教育普及活動に焦点を置いたテーマ選定だったため普段のスペシャルナイトのような内容を期待していた参加者にとっては物足りなさを感じる内容だったと思われる。その一方で「最新の研究の講演会も悪くはありませんが、初心者にもわかりやすいこのような講演会をこれからも増やして欲しいです。」という意見も少なくなかった。そのため、今回はスペシャルナイトの講演会は少し敷居が高い、と感じている層を取り込む良い機会だったとも考えられる。

スペシャルナイトに限らず、イベントを実施する際にはどのような層をターゲットとし、どのようにアプローチすればその層に情報を届けられるか、参加意欲を高められるのかを意識して広報活動を実施したい。

